八正道シリーズ (2)

正思惟
しょう し ゆい

仏教入門講座 I

もくじ

正思惟

一、正しい考え……1
二、二辺を離れる……2
三、正　信……5
四、顚　倒……9
五、暖かく柔らかな心……13
六、無常の心……16
七、迷　心……18
八、孤立と独立……23
あとがき

（表紙画・宇野正一）

正思惟

一、正しい考え

正見は執着の心が破れて純粋な心に立ちかえったことで、言いかえると無我の智慧であります。自分を自分の思いで固め、自分によって経験されたあらゆるものを実体化し固執していた心が破れて、ものそのものの本当のすがたに触れることができた。それが正見とよばれる智慧であります。

ここから正思惟とよばれるところの、正しくものごとを考え、正確に受けとることができるようになってきます。正見がないと正思惟は成りたちません。正見には前にも申しましたように執着が破れるということがあります。この破

れるということが大切で間違った心が破れなければ、本当のものは開けてきません。人間は何かを得ようとしてあせりますが、それより無駄なもの、間違ったものを捨てる方が大切なのである。道を求めるということは、かえって捨てる努力の方が大事なのでないかと思う。このようにものごとを正しく見きわめ、正しく考えるについても、やはり間違った考えが破れるということが大事で、そのためにも正見がないと正思惟は成りたたないのであります。

二、二辺を離れる

人間には正しくものごとを考えたり、見たりすることのできない病があって、それを増損の二辺とよんでいます。増損というのは、増は増益ということ、損は損減ということであります。増益というのは、ものをそれ以上に考えること、つまり有りもせぬ値打ちをつけること、それに反して損減とは、もの

をそれ以下に考えること、つまり値引きをして値打ちを認めないことであります。言いかえると増益は執着からおこることであります。

たとえばお金に対して執着するということは、お金をお金以上に考えることでありましょう。しかしお金はお金以上のものでは決してありません。お金はお金で買えるものだけが買えるのです。何でも買えるものではありません。お金で買えぬものはいくらでもあります。命をお金で買うわけにいきませんし、身体もお金では買えません。指一本買えません。子供だって兄弟だってそうでしょう。愛情も金で買えません。考えてみると大切なものほどお金で買えないようであります。

だからといって、お金なんかはどうでもいいものだ、無い方がいい、などと考えるのは、お金をお金以下に考えることで、値打ちの引き倒し、これは邪見であります。これは損減に当りましょう。これも健康な考え方ではありませ